

# 啓明学院中学校・高等学校

## ソーシャル・アントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成

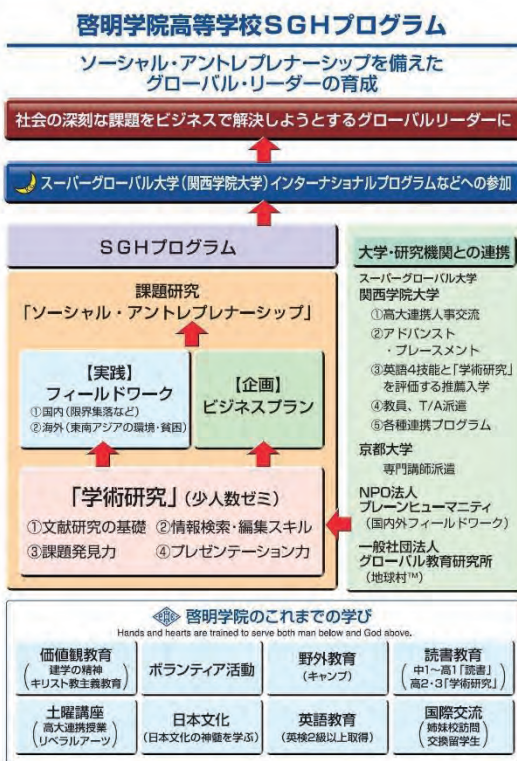
### 【構想の概要】

ソーシャル・アントレプレナーシップとは、公と民の間に立ち、公共の精神をもちつつ、社会的課題をビジネスで解決しようとするマインドを指している。

本構想では、文献研究をベースにした探究型学習で思考の基礎力を養い、フィールドワークやビジネスプランなどの実践的な取り組みを経て、問題解決の過程において、自主性・協働性・多様性を身に付けさせようとしている。

本校の教育の特色である価値観教育、野外教育、読書教育をベースに、生徒の社会的課題への関心を高め、深い教養と、問題解決力、コミュニケーション力を培い、ソーシャル・アントレプレナーシップを育むカリキュラムおよび指導法を大学・各機関との連携により開発する。

本校ではコース制にせず、全校生徒を対象にしている。本校が独自に開発したソーシャルビジネスプランコンテスト、ミャンマースタディーツアーなどで、グローバルな社会課題に取り組むソーシャルビジネスについて学んでいる。



高校 教育課程表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
中入学	国語総合	日本史B	数学I	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	音楽I	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	社会科	総合	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II
1年	国語総合	日本史B	数学I	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	音楽I	コミュニケーション英語I	英語表現I	英語会話	社会科	総合	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	
2年	現代文B	古典B	世界史B	地理A	数学II	数学B	物理基礎	体育	保健	コミュニケーション英語II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	英語表現II	
3年	現代文B	古典B	世界史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	現代史B	

※ 高校入学生に対して、定書特別講座あり

高2選択科目  
・英語特選  
・化学(高3理系希望者必修)  
・音楽  
・工業  
・古典特選

高3選択科目  
・英語特選(哲学大文学部英米文学英語学・総合教養学部・国際学部希望者必修)  
・数学特選  
・数学特選(理系)  
・数学特選(理系)  
・数学特選(理系)  
・国際政治・国際経済  
・法医学(法学部法社会学部希望者必修)  
・音楽  
・美術(音楽)  
・社会学入門(社会学大社会学部希望者必修)

平成 27~30 年度は「総合的な学習の時間」を独立して設定していた。

令和元年度からは「総合的な探究の時間」として、(中学入学者)

2・3 年次は「学術研究」を設定した。

## 教育課程 学校設定教科・科目

学校設定教科に読書科を、学校設定科目としては2・3年次に「学術研究」を設定している。人文科学、社会科学、自然科学の3分野に約20講座を開設し2年間にわたって探究を行うゼミである。全教科の教員、35名が指導に当たっている。

2年次は指定されたテキストを使い文献研究の基礎を学ぶ。2年次後半～3年次にかけて、グローバ



ルな社会課題探究分野と基礎研究分野に分かれ、それぞれ個人研究テーマを練っていく。

3年次に論文の中間報告、「学術研究発表会」で最終発表を行う。

なお2講座は、外国人教員が英語で授業を行い、生徒は研究論文を英語で書いている。

令和元年度より、1年次の「地歴特講」と「読書」を「総合的な探究の時間」とし、グローバルな課題をトピックに取り上げ、グローバルイシューへの関心を育てている。

## 総合的な学習の時間

①SGH講演会を設定し、SDGs、国際協力・支援、ソーシャルビジネスなどをテーマに大学教授、社会起業家、ジャーナリストを招聘して実施。「学術研究」や国内外のフィールドワークへの問題意識を喚起している。

②フィールドワークは、2年次に異文化理解をテーマに必修の海外フィールドワークを実施。さらに希望者向けには、国内、ミャンマー、インドで実施。研修成果は、発表会、ポスター掲示などで共有。

③ソーシャルビジネスプランの作成を全校生徒必修としている。啓明ビジネスプランコンテストを平成28年度に開設。ソーシャルビジネス特有の観点を学んでいる。NPO法人で活躍する実践家、経営コンサルタント、学識経験者を講師と審査員に招いている。生徒相互審査、専門家による審査を経て、全校生徒の前で最終プレゼンテーション審査が行われる。

## 特色ある取り組み

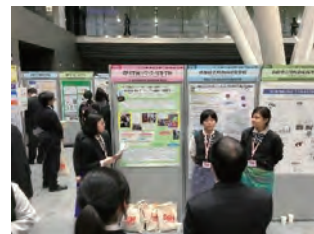
平成29年度よりミャンマースタディーツアーを

実施している。参加者数は延べ80人である。一般社団法人ベアフットドクターズグループとともにプログラムを開発。内戦時代にケシ栽培をしていた地域で八角を栽培し、地域住民の経済力向上と平和をもたらすための「八角平和計画」に取り組んでいる。八角はインフルエンザの薬の原料とするものである。現地YMCAでミャンマーの大学生と社会課題に関する議論も行う。

## 高大連携

希望者は、関西学院大学との高大連携プログラムに参加できる。

SDGsに関連した社会課題を学び大学の単位を取得する科目履修「総合政策トピックスA」、生徒が実行委員会を組織して行う「KGオールスターキャンプ」、「高校生国際交流の集い」など。



## 教科間の連携、進め方

国語科、社会科、英語科が中心となりグローバルな社会課題、異文化理解等をテーマに授業を実施。英語科では、1・2年次に社会課題の解決に関するプレゼンテーション、ディベートコンテストを行い、英語での表現力を鍛えている。また校内のICT環境整備を進め、平成30年度には、タブレット端末を活用したプロジェクト型学習を実施している。

## 成果とエビデンス

将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合はSGH指定以後70%台を維持。大学への進路選択に影響があったと考える生徒は6～8割である。自主的に留学又は海外研修に行く生徒数は毎年100人以上になっている。

H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
71人	132人	111人	104人

高校在学中に1年間の留学をする生徒数は21名(3%)となっている。(令和元年7月時点)

生徒の卒業時の英語力については、CEFRのB1～B2レベルの生徒の割合が、SGH指定1年目の88%から4年目には95%に上昇した。

大学進学後の海外留学・海外研修参加者数は、SGH指定以降、157名(22%)である(平成31年3月時点)。